

**【表紙】**

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年12月25日
【中間会計期間】	第87期中（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	信越放送株式会社
【英訳名】	Sin-etsu Broadcasting Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小根山 克雄
【本店の所在の場所】	長野市鶴賀問御所町1200番地3
【電話番号】	026 - 237 - 0500
【事務連絡者氏名】	経理部長 福澤 徹
【最寄りの連絡場所】	長野市鶴賀問御所町1200番地3
【電話番号】	026 - 237 - 0500
【事務連絡者氏名】	経理部長 福澤 徹
【縦覧に供する場所】	信越放送株式会社東京支社 (東京都中央区銀座5-9-8 クロス銀座ビル)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1)連結経営指標等

回次	第85期中	第86期中	第87期中	第85期	第86期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (百万円)	3,827	3,857	3,775	7,707	7,855
経常利益 (百万円)	335	187	191	561	425
中間(当期)純利益 (百万円)	260	108	33	418	200
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	27	82	461	830	109
純資産額 (百万円)	19,877	20,733	21,188	20,681	20,760
総資産額 (百万円)	23,101	23,753	24,434	24,097	24,021
1株当たり純資産額 (円)	22,002.25	22,937.25	23,416.97	22,896.63	22,952.83
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	293.88	122.58	37.63	473.16	226.16
潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	84.3	85.4	84.8	84.1	84.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	423	284	442	926	832
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	65	442	212	195	779
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	208	77	96	266	85
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 (百万円)	4,107	4,187	4,524	4,422	4,390
従業員数 (人)	199	198	194	196	195
(外、平均臨時雇用者数)	(51)	(48)	(47)	(51)	(48)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていない。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

## (2)提出会社の経営指標等

回次	第85期中	第86期中	第87期中	第85期	第86期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (百万円)	3,330	3,357	3,289	6,720	6,829
経常利益 (百万円)	171	258	282	294	519
中間(当期)純利益 (百万円)	162	243	274	253	402
資本金 (百万円)	450	450	450	450	450
発行済株式総数 (株)	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000
純資産額 (百万円)	15,766	16,647	17,286	16,508	16,736
総資産額 (百万円)	18,223	18,978	19,823	19,156	19,214
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	30	30
自己資本比率 (%)	86.5	87.7	87.2	86.2	87.1
従業員数 (人)	143	143	139	143	141
(外、平均臨時雇用者数)	(35)	(32)	(32)	(35)	(32)

(注) 売上高には、消費税等は含まれていない。

## 2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社における異動もない。

## 3【関係会社の状況】

当中間連結会計期間において、重要な関係会社の異動はない。

## 4【従業員の状況】

### (1)連結会社の状況

平成26年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数（人）	
放送関連事業	176	(35)
不動産関連事業	18	(12)
合計（報告セグメント計）	194	(47)

（注）1．従業員数は就業人員数である。

2．従業員数欄の（外書）は、臨時従業員数の当中間連結会計期間の平均雇用人数である。

### (2)提出会社の状況

平成26年9月30日現在

従業員数（人）	139	(32)
---------	-----	------

（注）1．従業員数は就業人員数である。

2．従業員数欄の（外書）は、臨時従業員数の当中間会計期間の平均雇用人数である。

### (3)労働組合の状況

労使関係について特に記載すべき事項はない。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策及び日銀による金融政策により、企業業績や雇用情勢の改善が見られた一方、消費税増税の駆け込み需要の反動などにより、個人消費に弱さが見られ、GDPの成長率も2四半期連続のマイナスとなり、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移した。また、長野県経済も同様に引き続き景気回復も実感に欠け、先行き不透明な状況で推移した。

主たる事業の放送業界では、上期前半は、消費税増税の駆け込み需要の反動による影響により低調であったものの、上期半ばから徐々に回復し、収益の柱の一つであるテレビスポット広告の出稿量は前年を上回った。しかし、テレビタイムセールス及びラジオは、前年を下回る結果となった。このような状況の中、当社グループは一丸となり収益確保及び費用削減に努めた。この結果、当中間連結会計期間における売上高は3,775百万円と前中間連結会計期間に比べ81百万円(2.1%)の減収となった。一方、営業費用については引き続き徹底したコストの削減を図ったこと等により、営業利益は227百万円と前中間連結会計期間に比べ5百万円(2.6%)の増益となった。営業外費用で持分法による投資損失124百万円を計上したが営業外収益で投資有価証券売却益58百万円を計上したこと等により、経常利益は191百万円と前中間連結会計期間に比べ3百万円(1.8%)の増益、中間純利益は、主に持分変動損失100百万円を計上したことにより33百万円と前中間連結会計期間に比べ75百万円(69.3%)の減益となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

放送関連事業について、ラジオはスポット収入はほぼ前年並みを維持したが、ネットタイム収入が、前年に引き続き減少となった。また、ローカルタイム収入は、消費税増税の影響によるSBCラジオショッピングの売上減少や自治体の番組制作の減少などにより前年を割り込む結果となり、ラジオ全体として前年並みの収入を確保出来なかった。テレビは、ネットタイム収入はレギュラーベースでは減少したものの、ワールドカップサッカーやアジア大会、世界バレーの単発でカバーしてほぼ前年並みの収入となった。ローカルタイム収入は前年に大型番組が多かった反動により前年を下回った。また、スポット収入は東京、松本及び諏訪が好調で消費税増税の影響が大きかった4月以外は前年を上回り好調に推移し、他の事業所のマイナス分をカバーした。全体としては他の事業所が前年を下回ったことにより前年と比べ微増にとどまった。また、その他の放送関連の催事等については、前年のひろしま美術館展のような大型の事業を行っておらず減収となった。この結果、売上高は3,282百万円と前中間連結会計期間に比べ84百万円(2.5%)の減収、営業利益は111百万円と前中間連結会計期間に比べ6百万円(5.4%)の減益となった。

不動産関連事業は好調に推移し、コスト削減を行い、売上高は493百万円と前中間連結会計期間に比べ2百万円(0.5%)の増収、営業利益は115百万円と前中間連結会計期間に比べ12百万円(11.7%)の増益となった。

当中間連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおり。

相手先	前中間連結会計期間 (自 平成25年4月1日至 平成25年9月30日)		当中間連結会計期間 (自 平成26年4月1日至 平成26年9月30日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
株式会社電通	526	13.7	535	14.2

#### (2)キャッシュ・フロー

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、主に税金等調整前中間純利益の計上及び放送関連事業における減価償却費、売上債権の回収を要因とした好調な営業活動におけるキャッシュ・フローの収入と、有形固定資産、投資有価証券の取得及び借入金の返済による支出の結果、前連結会計年度末に比べ134百万円(3.1%)増加し、当中間連結会計期間末には、4,524百万円となった。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において、営業活動の結果得られた資金は、158百万円(前年同期比55.7%)増加し、442百万円となった。これは主に、税金等調整前中間純利益113百万円、減価償却費229百万円及び売上債権の減少額119百万円等によるものである。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において、投資活動の結果使用した資金は、230百万円(前年同期比52.0%)減少し、212百万円となった。これは主に、有形固定資産の取得による支出121百万円、投資有価証券の取得及び売却の差額による支出54百万円等によるものである。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において、財務活動の結果使用した資金は、19百万円(前年同期比25.1%)減少し、96百万円となった。これは主に、長期借入金の返済による支出28百万円及びリース債務の返済による支払37百万円等によるものである。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

当社グループは、事業の性質上受注生産形態に馴染まないため、生産規模及び受注規模を金額・数量で記載していない。このため、生産、受注及び販売の状況は「1 業績等の概要」のセグメントの業績にその概要を示している。

## 3【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の連結子会社、以下同じ）が対処すべき課題について、重要な変更はない。

## 4【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

## 5【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、新たに締結した経営上の重要な契約の決定又は締結等はない。

## 6【研究開発活動】

該当事項はない。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1)重要な会計方針及び見積り

当社グループの中間連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されている。中間連結財務諸表の作成にあたっては、一定の会計基準の範囲内で見積りが行われている部分があり、資産・負債及び費用に反映されている。見積りについては、継続して評価し、必要に応じて見直しを行っているが、見積りには不確実性が伴うため、実際の結果と異なる可能性がある。

### (2)財政状態の分析

#### （流動資産）

当中間連結会計期間末における流動資産の残高は、7,104百万円（前連結会計年度末は7,025百万円）となり、79百万円増加した。これは、主に前払費用が増加したことが主な要因である。

#### （固定資産）

当中間連結会計期間末における固定資産の残高は、17,329百万円（前連結会計年度末は16,996百万円）となり、332百万円の増加となった。これは、投資有価証券の時価評価額の増加に伴う増加が主な要因である。

#### （流動負債）

当中間連結会計期間末における流動負債の残高は、1,227百万円（前連結会計年度末は1,295百万円）となり、67百万円の減少となった。これは、主に買掛金及び未払金等の減少が主な要因である。

#### （固定負債）

当中間連結会計期間末における固定負債の残高は、2,017百万円（前連結会計年度末は1,965百万円）となり、52百万円の増加となった。これは、長期借入金の返済、退職給付引当金の減少した一方でその他有価証券評価差額の増加に伴う繰延税金負債が増加したことが主な要因である。

#### （純資産）

当中間連結会計期間末における純資産の残高は、21,188百万円（前連結会計年度末は20,760百万円）となり、428百万円増加した。これは、主に中間純利益33百万円の計上とその他有価証券評価差額金が403百万円増加したこと及び配当金の支払いが主な要因である。

#### （通期の見通し）

放送関連事業は、広告環境は引き続き不透明な状況が続くと予想され、収支見通しも、下半期は厳しい予測をせざるを得ない。このような状況の下、当社グループは引き続き競争力の強化を行うとともに経費削減等の実施により運転資金の効率化に努め、財務活動についても安定的で低コストの資金調達構造を構築し、当社グループの企業価値を高めていく所存である。

### (3)キャッシュ・フローの状況の分析

「1 業績等の概要（2）キャッシュ・フロー」を参照。

### (4)経営成績の分析

「1 業績等の概要（1）業績」を参照。

### 第3【設備の状況】

#### 1【主要な設備の状況】

当中間連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はない。

#### 2【設備の新設、除却等の計画】

当中間連結会計期間において、前連結会計年度末に計画した重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はない。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はない。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000,000
計	1,000,000

##### 【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年12月25日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	900,000	900,000	非上場につき該当事項はな い。	当社は単元株制度は採用し ていない。
計	900,000	900,000	-	-

(注) 当社の株式を譲渡により取得するには、取締役会の承認を要する旨定款に定めている。

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

#### (5)【発行済株式数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成26年4月1日～ 平成26年9月30日	-	900,000	-	450	-	-

( 6 ) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
信濃毎日新聞株式会社	長野市南県町657	158,389	17.60
塩沢 鴻一	長野市	64,000	7.11
信越化学工業株式会社	東京都千代田区大手町2の6の1	63,000	7.00
株式会社八十二銀行	長野市岡田町178の8	27,900	3.10
小坂 憲次	長野市	27,000	3.00
長野県	長野市南長野幅下692の2	22,500	2.50
信越放送従業員持株会	長野市問御所町1200	20,211	2.25
株式会社文化放送	東京都港区浜松町1の31	17,145	1.91
長野県町村会	長野市西長野加茂北143の8	17,000	1.89
松本市	松本市丸の内3番7号	16,240	1.80
計	-	433,385	48.15

( 7 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式15,087	-	権利内容に何ら限定のない当社 における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式884,913	884,913	同上
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	900,000	-	-
総株主の議決権	-	884,913	-

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株式 数(株)	他人名義所有株式 数(株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 信越放送株式会社	長野市鶴賀問御所町 1200番地3	15,087	-	15,087	1.67
計	-	15,087	-	15,087	1.67

2 【株価の推移】

当社株式は非上場につき該当事項はない。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当半期報告書の提出日までの役員の異動はない。

## 第5【経理の状況】

### 1．中間連結財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

- (1)当社の中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成11年大蔵省令第24号）に基づいて作成している。
- (2)当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）に基づいて作成している。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の中間連結財務諸表及び中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の中間財務諸表について公認会計士矢島和政氏により中間監査を受けている。

## 1 【中間連結財務諸表等】

## (1) 【中間連結財務諸表】

## 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,480	4,595
受取手形及び売掛金	1,950	1,831
有価証券	306	331
たな卸資産	57	60
繰延税金資産	187	187
その他	69	126
貸倒引当金	27	26
流動資産合計	7,025	7,104
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	5,037	4,927
機械装置及び運搬具（純額）	1,251	1,234
工具、器具及び備品（純額）	190	217
土地	2,758	2,761
建設仮勘定	3	3
有形固定資産合計	1,29,240	1,29,144
<b>無形固定資産</b>	119	107
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	3,46,968	3,47,383
繰延税金資産	6	4
その他	693	723
貸倒引当金	31	33
投資その他の資産合計	7,636	8,077
固定資産合計	16,996	17,329
資産合計	24,021	24,434

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	222	177
短期借入金	71	71
未払金	581	537
リース債務	69	66
未払法人税等	55	40
未払消費税等	22	67
賞与引当金	131	123
その他	140	143
流動負債合計	1,295	1,227
固定負債		
長期借入金	370	342
繰延税金負債	150	329
退職給付に係る負債	397	339
役員退職慰労引当金	155	153
リース債務	328	294
アナログ放送設備解体引当金	126	120
その他	4,436	4,436
固定負債合計	1,965	2,017
負債合計	3,261	3,245
純資産の部		
株主資本		
資本金	450	450
利益剰余金	19,419	19,426
自己株式	14	14
株主資本合計	19,855	19,862
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	455	859
その他の包括利益累計額合計	455	859
少数株主持分	449	466
純資産合計	20,760	21,188
負債純資産合計	24,021	24,434

【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	3,857	3,775
売上原価	1,765	1,690
売上総利益	2,092	2,084
販売費及び一般管理費	1,187	1,186
営業利益	222	227
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	33	34
負ののれん償却額	11	-
投資有価証券売却益	36	58
その他	8	9
営業外収益合計	91	102
営業外費用		
支払利息	13	11
持分法による投資損失	111	124
その他	0	3
営業外費用合計	126	139
経常利益	187	191
特別利益		
退職給付引当金戻入額	29	-
退職給付に係る負債戻入額	-	23
特別利益合計	29	23
特別損失		
固定資産除却損	215	21
持分変動損失	12	100
投資有価証券評価損	0	-
環境対策費	19	-
その他	1	-
特別損失合計	48	101
税金等調整前中間純利益	167	113
法人税、住民税及び事業税	40	42
法人税等調整額	1	15
法人税等合計	39	57
少数株主損益調整前中間純利益	128	55
少数株主利益	19	22
中間純利益	108	33

【中間連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前中間純利益	128	55
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	76	305
持分法適用会社に対する持分相当額	30	100
その他の包括利益合計	45	406
中間包括利益	82	461
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	60	436
少数株主に係る中間包括利益	21	25

【中間連結株主資本等変動計算書】

前中間連結会計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

(単位：百万円)

	株主資本				その他の包括 利益累計額	少数株主持分	純資産合計
	資本金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証 券評価差額金		
当期首残高	450	19,246	14	19,682	579	420	20,681
当中間期変動額							
剰余金の配当		26		26			26
中間純利益		108		108			108
株主資本以外の項目の当中間 期変動額（純額）					45	16	29
当中間期変動額合計	-	81	-	81	45	16	52
当中間期末残高	450	19,328	14	19,764	533	436	20,733

当中間連結会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

(単位：百万円)

	株主資本				その他の包括 利益累計額	少数株主持分	純資産合計
	資本金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証 券評価差額金		
当期首残高	450	19,419	14	19,855	455	449	20,760
当中間期変動額							
剰余金の配当		26		26			26
中間純利益		33		33			33
株主資本以外の項目の当中間 期変動額（純額）					403	17	421
当中間期変動額合計	-	6	-	6	403	17	428
当中間期末残高	450	19,426	14	19,862	859	466	21,188

## 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 平成25年 4月 1日 至 平成25年 9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	167	113
減価償却費	227	229
投資有価証券売却損益（は益）	36	58
有価証券及び投資有価証券評価損益（は益）	0	-
持分法による投資損益（は益）	111	124
持分変動損益（は益）	12	100
アナログ放送設備解体引当金の増減額（は減少）	7	5
負ののれん償却額	11	-
有形固定資産除却損	15	1
賞与引当金の増減額（は減少）	9	7
退職給付引当金の増減額（は減少）	97	-
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	-	57
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	24	1
受取利息及び受取配当金	34	35
支払利息	13	11
売上債権の増減額（は増加）	108	119
たな卸資産の増減額（は増加）	14	2
未収入金の増減額（は増加）	11	0
貸倒引当金の増減額（は減少）	5	1
仕入債務の増減額（は減少）	4	44
未払金の増減額（は減少）	62	44
未払消費税等の増減額（は減少）	58	45
前受金の増減額（は減少）	17	1
その他	22	56
小計	266	434
利息及び配当金の受取額	83	78
利息の支払額	13	11
法人税等の支払額	52	57
営業活動によるキャッシュ・フロー	284	442
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額（は増加）	18	4
投資有価証券の取得による支出	546	1,051
投資有価証券の売却による収入	313	996
有形固定資産の取得による支出	138	121
無形固定資産の取得による支出	5	1
その他	47	29
投資活動によるキャッシュ・フロー	442	212
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	25	28
配当金の支払額	26	26
少数株主への配当金の支払額	4	4
ファイナンス・リース債務の返済による支出	20	37
財務活動によるキャッシュ・フロー	77	96
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	235	134
現金及び現金同等物の期首残高	4,422	4,390
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,417	1,4524

【注記事項】

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

子会社のうち次に示す3社が連結の範囲に含まれている。

株式会社エステート長野

株式会社SBCハウジング

株式会社コンテンツビジョン

なお、子会社のうち、株式会社エステート長野サービスは連結子会社に含まれていない。当該非連結子会社の総資産、売上高、中間純利益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも中間連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていない。

2. 持分法の適用に関する事項

関連会社のうち、(株)電算及び(株)インフォメーション・ネットワーク・コミュニティ2社に対する投資について持分法を適用している。

なお、持分法を適用していない関連会社(株式会社ながのアド・ビューロ他)については、中間連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法を適用せず原価法により評価している。

3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間期の末日は中間連結決算日と同一である。

4. 会計処理基準に関する事項

(イ)重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

たな卸資産

仕掛品

当社及び連結子会社は主として個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用している。

商品・その他

当社及び連結子会社は主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用している。

(ロ)重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

主として定率法。ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物付属設備は除く)については定額法。なお、主な耐用年数は次のとおり。

建物及び構築物 3~50年

機械装置及び運搬具 3~20年

工具器具及び備品 2~20年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づいている。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法。

(八)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上している。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、確定に準ずるものと認められる合理的な見積額を計上している。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払に備えるため内規に基づく中間連結会計期間末要支給額の100%を計上している。

アナログ放送設備解体引当金

アナログ放送設備の解体、廃棄等による費用及び損失見込額を計上している。

二)退職給付に係る会計処理の方法

当社および連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、主に退職給付に係る中間連結会計期間末要支給額を基準とした金額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用している。

(ホ)中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、価格の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっている。

(ヘ)その他中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっている。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当中間連結会計期間より適用しているが、簡便法を適用しているため、退職給付債務及び勤務費用の計算方法に変更はない。

この結果、当中間連結会計期間での損益及び純資産に与える影響はない。

( 中間連結貸借対照表関係 )

1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	7,086百万円	7,289百万円

2 固定資産の圧縮記帳累計額は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
固定資産の圧縮記帳累計額	701百万円	701百万円

3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
投資有価証券(株式)	3,346百万円	3,176百万円

4 投資有価証券の消費貸借取引

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
貸付有価証券	1,049 百万円	1,275 百万円
上記取引による預り担保金(固定負債)「その他」	200	200

( 中間連結損益計算書関係 )

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

	前中間連結会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当中間連結会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
人件費	560百万円	532百万円
代理店手数料	562	571
減価償却費	83	88
賞与引当金繰入額	59	61
退職給付費用	23	30
その他	580	572

2 固定資産除却損の内容

	前中間連結会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当中間連結会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
建物及び構築物	0百万円	建物及び構築物 1百万円
機械装置及び運搬具	14	その他 0
その他	0	
	15	1

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

前中間連結会計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当中間連結会計期間 増加株式数(千株)	当中間連結会計期間 減少株式数(千株)	当中間連結会計期間末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	900	-	-	900
合計	900	-	-	900
自己株式				
普通株式	15	-	-	15
合計	15	-	-	15

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月24日 定時株主総会	普通株式	26	30	平成25年3月31日	平成25年6月25日

当中間連結会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当中間連結会計期間 増加株式数(千株)	当中間連結会計期間 減少株式数(千株)	当中間連結会計期間末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	900	-	-	900
合計	900	-	-	900
自己株式				
普通株式	15	-	-	15
合計	15	-	-	15

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	26	30	平成26年3月31日	平成26年6月26日

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	4,173百万円	4,595百万円
有価証券勘定	444	331
計	4,618	4,926
預入期間が3か月を超える定期預金	430	401
現金及び現金同等物	4,187	4,524

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産・・・主として、放送関連事業におけるデジタル放送設備(機械装置及び運搬具)

無形固定資産・・・ソフトウェア

(2) リース資産の減価償却の方法

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(口)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりである。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
1年内	33百万円	33百万円
1年超	65	48
合計	99	82

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれていない(注)2.参照)。

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1)現金及び預金	4,480	4,480	-
(2)受取手形及び売掛金	1,950	1,950	-
(3)有価証券及び投資有価証券	3,840	3,840	-
資産計	10,271	10,271	-
(1)支払手形及び買掛金	222	222	-
(2)短期借入金	14	14	-
(3)未払金	581	581	-
(4)未払法人税等	55	55	-
(5)未払消費税等	22	22	-
(6)長期借入金	428	449	20
(7)リース債務	397	386	11
負債計	1,721	1,731	9

当中間連結会計期間(平成26年9月30日)

	中間連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1)現金及び預金	4,595	4,595	-
(2)受取手形及び売掛金	1,831	1,831	-
(3)有価証券及び投資有価証券	4,450	4,450	-
資産計	10,877	10,877	-
(1)支払手形及び買掛金	177	177	-
(2)短期借入金	14	14	-
(3)未払金	537	537	-
(4)未払法人税等	40	40	-
(5)未払消費税等	67	67	-
(6)長期借入金	399	403	3
(7)リース債務	360	347	13
負債計	1,596	1,587	9

(注)1.金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっている。

(3)有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっている。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」を参照。

負 債

(1)支払手形及び買掛金、(2)短期借入金、(3)未払金、(4)未払法人税等、(5)未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっている。

(6)長期借入金、(7)リース債務

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定している。

2.時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:百万円)

区分	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当中間連結会計期間 (平成26年9月30日)
その他有価証券のうちの非上場株式及び関連会社株式	3,434	3,264

これらについては、関係会社であること又は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)有価証券及び投資有価証券「その他有価証券」」には含めていない。

3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれている。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがある。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成26年3月31日)

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得価額(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	(1)株式	3,003	2,293	710
	(2)社債	5	5	0
	(3)その他	136	125	11
	小計	3,145	2,423	721
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないも の	(1)株式	48	57	8
	(2)その他	339	348	9
	小計	388	405	17
合計		3,533	2,829	704

当中間連結会計期間(平成26年9月30日)

1. その他有価証券

	種類	中間連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得価額(百万円)	差額(百万円)
中間連結貸借対 照表計上額が取 得原価を超える もの	(1)株式	3,434	2,259	1,175
	(2)その他	468	456	11
	小計	3,902	2,716	1,186
中間連結貸借対 照表計上額が取 得原価を超えな いもの	(1)株式	143	150	6
	(2)社債	9	10	0
	(3)その他	62	66	3
	小計	216	226	9
合計		4,119	2,942	1,176

(注) 前連結会計年度において、有価証券について2百万円(その他有価証券の株式2百万円)減損処理を行っている。  
 当中間連結会計期間において、減損処理は行っていない。  
 なお、減損処理にあたっては、中間期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程  
 度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っている。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(平成26年3月31日)及び当中間連結会計期間(平成26年9月30日)

該当事項はない。

(ストック・オプション等関係)

前中間連結会計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)、当中間連結会計期間(自平成26年4月1日 至平  
 成26年9月30日)及び前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

該当事項はない。

(賃貸等不動産関係)

前中間連結会計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)、当中間連結会計期間(自平成26年4月1日 至平  
 成26年9月30日)及び前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため注記を省略している。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものである。

当社グループは、放送関連サービス及び不動産関連サービスの事業を行っており、業種別に区分された事業ごとに、当社及び当社の連結子会社が各々事業活動を展開している。そのため、当社グループは、「放送関連事業」及び「不動産関連事業」を報告セグメントとしている。

「放送事業」は、ラジオ及びテレビの一般放送を主な事業としている。「不動産関連事業」は、住宅展示場の運営、動産・不動産の売買及び不動産の管理・運営建物管理を主な事業としている。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一である。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値である。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいている。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前中間連結会計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間連結財務諸表 計上額(注)2
	放送関連事業	不動産関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,366	490	3,857	-	3,857
セグメント間の内部売上高又は振替高	152	133	286	286	-
計	3,519	624	4,144	286	3,857
セグメント利益	118	103	222	-	222
セグメント資産	20,516	3,236	23,753	-	23,753
その他の項目					
減価償却費	198	28	227	-	227

(注)1. 調整額は、以下のとおりである。

(1) 売上高の調整額はセグメント間取引消去である。

当中間連結会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間連結財務諸表 計上額(注)2
	放送関連事業	不動産関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,282	493	3,775	-	3,775
セグメント間の内部売上高又は振替高	137	105	242	242	-
計	3,419	598	4,017	242	3,775
セグメント利益	111	115	227	-	227
セグメント資産	21,107	3,326	24,434	-	24,434
その他の項目					
減価償却費	202	27	229	-	229

(注)1. 調整額は、以下のとおりである。

(1) 売上高の調整額はセグメント間取引消去である。

【関連情報】

前中間連結会計期間（自 平成25年 4月 1日 至 平成25年 9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

	放送関連事業	不動産関連事業	合計
外部顧客への売上高	3,366百万円	490百万円	3,857百万円

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略している。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社 電通	526百万円	放送関連事業

当中間連結会計期間（自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

	放送関連事業	不動産関連事業	合計
外部顧客への売上高	3,282百万円	493百万円	3,775百万円

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略している。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社 電通	535百万円	放送関連事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前中間連結会計期間（自 平成25年 4月 1日 至 平成25年 9月30日）及び当中間連結会計期間（自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日）

該当事項はない。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前中間連結会計期間（自 平成25年 4月 1日 至 平成25年 9月30日）

平成22年 4月 1日に行われた企業結合（子会社の企業結合）により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりである。

（単位：百万円）

	不動産関連事業	合計
当中間期償却額	11	11
当中間期末残高	11	11

当中間連結会計期間（自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日）

該当事項はない。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前中間連結会計期間（自 平成25年 4月 1日 至 平成25年 9月30日）及び当中間連結会計期間（自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日）

該当事項はない。

( 1 株当たり情報 )

	前中間連結会計期間 ( 自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日 )	当中間連結会計期間 ( 自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月30日 )
1 株当たり中間純利益金額	122.58円	37.63円
( 算定上の基礎 )		
中間純利益金額 ( 百万円 )	108	33
普通株主に帰属しない金額 ( 百万円 )	-	-
普通株式に係る中間純利益金額 ( 百万円 )	108	33
普通株式の期中平均株式数 ( 千株 )	884	884

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

	前連結会計年度 ( 平成26年 3 月31日 )	当中間連結会計期間 ( 平成26年 9 月30日 )
1 株当たり純資産額	22,952.83円	23,416.97円

( 重要な後発事象 )

該当事項はない。

( 2 ) 【その他】

該当事項はない。

## 2【中間財務諸表等】

## (1)【中間財務諸表】

## 【中間貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当中間会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,764	3,834
受取手形	1	1
売掛金	1,830	1,776
有価証券	306	331
たな卸資産	54	52
繰延税金資産	178	178
その他	58	120
貸倒引当金	23	22
<b>流動資産合計</b>	<b>6,172</b>	<b>6,273</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物（純額）	4,024	3,946
構築物（純額）	258	244
機械及び装置（純額）	2,123	2,122
土地	2,215	2,218
建設仮勘定	3	3
その他（純額）	200	225
<b>有形固定資産合計</b>	<b>7,939</b>	<b>7,861</b>
<b>無形固定資産</b>	89	78
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	3,533	4,103
関係会社株式	840	840
その他	664	693
貸倒引当金	25	26
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>5,012</b>	<b>5,610</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>13,041</b>	<b>13,550</b>
<b>資産合計</b>	<b>19,214</b>	<b>19,823</b>

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当中間会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	192	179
未払金	534	500
リース債務	69	66
未払法人税等	17	13
賞与引当金	122	115
その他	49	90
流動負債合計	986	965
固定負債		
リース債務	328	294
退職給付引当金	388	330
役員退職慰労引当金	137	136
繰延税金負債	126	306
アナログ放送設備解体引当金	126	120
長期預り保証金	3 383	3 383
固定負債合計	1,491	1,572
負債合計	2,477	2,537
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	450	450
利益剰余金		
利益準備金	112	112
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	181	181
放送設備積立金	5,000	5,000
別途積立金	9,750	9,750
繰越利益剰余金	812	1,061
利益剰余金合計	15,856	16,104
自己株式	22	22
株主資本合計	16,283	16,532
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	452	754
評価・換算差額等合計	452	754
純資産合計	16,736	17,286
負債純資産合計	19,214	19,823

【中間損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	3,357	3,289
売上原価	1,535	1,468
売上総利益	1,822	1,821
販売費及び一般管理費	1,688	1,681
営業利益	133	140
営業外収益	1 133	1 152
営業外費用	2 9	2 10
経常利益	258	282
特別利益	4 29	4 23
特別損失	5 34	-
税引前中間純利益	252	305
法人税、住民税及び事業税	9	16
法人税等調整額	0	14
法人税等合計	9	31
中間純利益	243	274

【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	利益剰余金						
		利益準備金	その他利益剰余金					
			特別償却準備金	固定資産圧縮積立金	デジタル化設備積立金	放送設備積立金	別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	450	112	0	182	4,500	-	9,750	934
当中間期変動額								
特別償却準備金の取崩			0					0
固定資産圧縮積立金の取崩				0				0
デジタル化設備積立金取崩					4,500			4,500
剰余金の配当								26
放送設備積立金の積立						5,000		5,000
中間純利益								243
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）								
当中間期変動額合計	-	-	0	0	4,500	5,000	-	282
当中間期末残高	450	112	-	182	-	5,000	9,750	652

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	22	15,907	600	16,508
当中間期変動額				
特別償却準備金の取崩				
固定資産圧縮積立金の取崩				
デジタル化設備積立金取崩				
剰余金の配当		26		26
放送設備積立金の積立				
中間純利益		243		243
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）			77	77
当中間期変動額合計	-	216	77	139
当中間期末残高	22	16,124	523	16,647

当中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	利益剰余金				
		利益準備金	その他利益剰余金			
			固定資産圧縮積立金	放送設備積立金	別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	450	112	181	5,000	9,750	812
当中間期変動額						
固定資産圧縮積立金の取崩			0			0
剰余金の配当						26
中間純利益						274
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）						
当中間期変動額合計	-	-	0	-	-	248
当中間期末残高	450	112	181	5,000	9,750	1,061

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	22	16,283	452	16,736
当中間期変動額				
固定資産圧縮積立金の取崩		-		-
剰余金の配当		26		26
中間純利益		274		274
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）			301	301
当中間期変動額合計	-	248	301	549
当中間期末残高	22	16,532	754	17,286

## 【注記事項】

### (重要な会計方針)

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

##### (2) たな卸資産

主として個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法。ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物付属設備は除く）については定額法。

なお、主な耐用年数は次のとおり。

建物 8～50年

構築物 3～45年

機械及び装置 3～20年

車両及び運搬具 2～15年

工具器具及び備品 2～20年

##### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいている。

##### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

#### 3. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上している。

##### (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、確定に準ずるものと認められる合理的な見積額の当中間会計期間負担額を計上している。

##### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上している。

##### (4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支払に備えるため内規に基づく中間期末要支給額の100%を計上している。

##### (5) アナログ放送設備解体引当金

アナログ放送設備の解体、廃棄等による費用及び損失見込額を計上している。

#### 4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっている。なお、仮払消費税等と仮受消費税等は相殺のうえ、流動負債の「その他」に含めている。

### (会計方針の変更)

#### (退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当中間会計期間より適用しているが、簡便法を適用しているため、退職給付債務及び勤務費用の計算方法に変更はない。この結果、当中間会計期間での損益及び純資産に与える影響はない。

### (表示方法の変更)

以下の事項について、記載を省略している。

・財務諸表等規則第25条及び第26条を準用する中間財務諸表等規則第17条に定める減価償却累計額の注記については、財務諸表等規則第26条第2項により、記載を省略している。

( 中間貸借対照表関係 )

1 偶発債務

(1) 債務保証

	前事業年度 (平成26年3月31日)		当中間会計期間 (平成26年9月30日)
(株)コンテンツながの(借入債務)	14百万円	(株)コンテンツながの(借入債務)	14百万円
(株)エステート長野(借入債務)	428	(株)エステート長野(借入債務)	399
計	442	計	413

2 固定資産の圧縮記帳累計額は、次のとおりである。

	前事業年度 (平成26年3月31日)		当中間会計期間 (平成26年9月30日)
機械及び装置		37百万円	37百万円

3 投資有価証券の消費貸借取引

	前事業年度 (平成26年3月31日)		当中間会計期間 (平成26年9月30日)
貸付有価証券	1,049 百万円		1,275 百万円
上記取引による預り担保金「長期預り保証金」	200		200

( 中間損益計算書関係 )

1 営業外収益のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前中間会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
受取利息	0百万円		0百万円
受取配当金	89		85
投資有価証券売却益	36		58

2 営業外費用のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前中間会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
支払利息	8百万円		7百万円

3 減価償却実施額

	前中間会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
有形固定資産	193百万円		193百万円
無形固定資産	9		13

4 特別利益のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前中間会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
退職給付引当金戻入額	29百万円		23百万円

5 特別損失のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前中間会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
固定資産除却損	15百万円		- 百万円
投資有価証券評価損	0		-
環境対策費用	19		-

( 有価証券関係 )

前事業年度(平成26年3月31日)

	貸借対照表計上額	時価	差額
関連会社株式	471百万円	4,364百万円	3,893百万円
合計	471	4,364	3,893

当中間会計期間（平成26年9月30日）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
関連会社株式	471百万円	4,571	4,099百万円
合計	471	4,571	4,099

（注）時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

区分	前事業年度 （平成26年3月31日）	当中間会計期間 （平成26年9月30日）
子会社株式	164百万円	164百万円
関連会社株式	205	205

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めていない。

（重要な後発事象）

該当事項はない。

（2）【その他】

該当事項はない。

## 第6【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出している。

### (1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第86期）（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）平成26年6月26日関東財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はない。

## 独立監査人の中間監査報告書

平成26年12月13日

信越放送株式会社

取締役会 御中

矢島和政公認会計士事務所

公認会計士 矢島 和政 印

私は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている信越放送株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書、中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について中間監査を行った。

### 中間連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私の責任は、私が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、私に中間連結財務諸表には全体として中間連結財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間連結財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間監査意見

私は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、信越放送株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は半期報告書提出会社が別途保管しております。

2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の中間監査報告書

平成26年12月13日

信越放送株式会社

取締役会 御中

矢島和政公認会計士事務所

公認会計士 矢島 和政 印

私は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている信越放送株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第87期事業年度の中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

### 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私の責任は、私が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、私に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間監査意見

私は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、信越放送株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は半期報告書提出会社が別途保管しております。

2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。